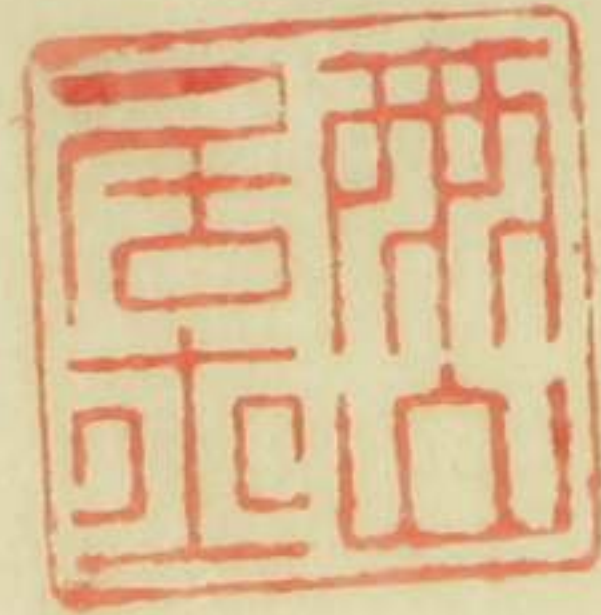




名家手簡  
五集  
下

259  
10





土肥霞洲

名元成字允仲称源四郎東都人  
寶曆七年没



取一都卜浩權一區  
都督印具了以石  
每以心各在如以風多累  
一  
お月亦甲乙中旁一此  
一

Handwritten text in cursive script on the right page, consisting of approximately 10 lines of characters.

Handwritten text in cursive script on the left page, consisting of approximately 10 lines of characters.

一之師白石碑坊  
石之... 漢... 碑坊  
石之... 漢... 碑坊  
石之... 漢... 碑坊  
石之... 漢... 碑坊  
石之... 漢... 碑坊

白石勿希  
白石勿希... 碑坊  
白石勿希... 碑坊  
白石勿希... 碑坊  
白石勿希... 碑坊  
白石勿希... 碑坊

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

桂山彩巖

名義樹字君華別号天水漁者稱三郎古唐門江戶人  
林整宇門人仕 大府寛延二年七十二没 達原堂藏

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

心  
一  
心  
一  
心  
一  
心  
一

江中清安以手書

之者乃行法事之引也

先以主善化之首善後

之乃如善也

天下保國及合於道也

善也

善也之心也

不棄汝玉祝仕止諸律

之清新雅練至今不類

感德也相又序中

之乃如善也

音也水向地再歸也

小技却。友整提。可法

主括。美。海。肉。一。盛。名

今。更。不。及。聲。說。書。方

終。身。均。考。博。景。慕。名。者

修。一。通。江。舟。坡。湖。空。春

以。修。仕。公。身。一。再。和。步。調

文。家。一。身。法。一。仕。以。計。宜。職。書

一。公。用。之。為。一。遠。事。是。字。後。以

枯。涼。一。夜。夢。詞。亦。又。一。排。天

洪。先。生。章。一。以。札。一。述

夜也の長馬相傳之

桂山高徳

六月廿日

善村五

安積老牛様

澁井大室

名孝徳字子章称平左衛門江戸人井蘭堂門人  
仕佐倉彦天明八年六十九没

阿彌陀佛  
此は徳の如く  
月夜に  
一  
山  
山  
山  
山



一、七月九日、船中にて

舟中より見て、北の山に、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

一、舟中より見て、北の山に、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

山あり、向ふは、山あり、

吉益東洞門人文化十二年八月三日  
 肥後熊本侯醫官  
 名椿壽字大年一號原診館主人肥後熊本侯醫官  
 吉益東洞門人文化十二年八月三日  
 肥後熊本侯醫官

村井琴山

名椿壽字大年一號原診館主人肥後熊本侯醫官  
 吉益東洞門人文化十二年八月三日

吉益東洞門人文化十二年八月三日  
 肥後熊本侯醫官  
 名椿壽字大年一號原診館主人肥後熊本侯醫官  
 吉益東洞門人文化十二年八月三日

忘 孩子 到 城  
着 看 同 感 天 感  
吃 不 少 是 可  
早 年 徐 了 了

今 年 只 有 时 分  
如 此 强 会 按  
持 有 事 人 心 也  
今 之 文 人 心 也

俗に出来たり  
俗に物をもたぬ者  
しぬる多し感  
俗に一向に

出するに力も  
あり  
心におもひ友に  
かたき世も  
なり

秋之夜十如之

七、夜生

夜半清輝初散時

佐、十竹

初授妙心寺為僧名祖淳後歸儒改名宗淳  
字子朴稱介三郎仕水府元祿十一年五十九没

了書致雅之氣部方寸事

亦用如九指下也、御被

衣、

一大事卒、方寸中成、

意、

仙洞探... 洞... 元... 上... 下... 上... 新... 後... 中... 南... 道... 聖...

五... 仙... 洞... 元... 上... 下... 上... 新... 後... 中... 南... 道... 聖...

高部之吉

敬文

正月廿一日

中村新八

細井平洲

名徳民字世馨又号如来山人称基三郎尾州人仕國侯享和元年七十四没

九江藏

平洲之吉  
敬文  
正月廿一日

四井平

のこ集り御集り  
瑞雲のていふ  
のていふ  
し  
うの

ていふ

ていふ

ていふ

加者分  
ていふ



十時梅屋

名賜字子羽別号殿真清抄軒称半藏浪華人仕  
長島彦文化元年七十三没

一 昔の梅屋の侍者清原  
の住みよき梅屋の侍者清原  
流石の梅屋の侍者清原  
高松の梅屋の侍者清原  
一 梅屋の侍者清原  
一 梅屋の侍者清原  
一 梅屋の侍者清原  
一 梅屋の侍者清原

一 昔の梅屋の侍者清原  
の住みよき梅屋の侍者清原  
流石の梅屋の侍者清原  
高松の梅屋の侍者清原  
一 梅屋の侍者清原  
一 梅屋の侍者清原  
一 梅屋の侍者清原  
一 梅屋の侍者清原

抱鶴多しはなし白津に  
海尾

とらまうちりりたす  
なりたは

所ら河らしなは揚和  
皆心

初高し花に記し  
ちとてし

よこのはくすゆらひし

詩のそはぬに記しぬらま

傷をそけりたし病をなを  
吾は云乃実絶をて言をら

吾は云乃実絶をて言をら  
ゆはあましし中懐し雲海

子に熱し知しすおそい

りおろし候にゆきしとて  
帰るそしは方をとれし箱を

いりし子なきれたる持し

いそしりあし元在中

少休あ伴し  
草

六言

十言

中世茶中候

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

関南樓

名其寧字子永称源藏本姓横山為鳳岡義子  
寛政十二年六十八没  
家藏

以  
新  
以

よのろけはらると  
あまのこは母流  
まのこは母流  
あまのこは母流  
あまのこは母流

あまのこは母流  
あまのこは母流  
あまのこは母流  
あまのこは母流  
あまのこは母流

八月廿七日

梅溪先生  
二六

松山天姥

名敬和字伯義林源藏始学九阜後学三王  
天明三年五月八日

Handwritten calligraphy in cursive style, likely a letter or a piece of poetry, enclosed in a rectangular border.

全

甘んじぬ心は此の  
はらわぬ心は此の  
はらわぬ心は此の  
はらわぬ心は此の

正徳元年  
松山深草

